

I 平成27年度定時総会 2015.6.23

適切な福祉用具の提供に向け、専門家としての自己研鑽の
努力義務が法制化。福祉用具専門相談員制度の大きな転換点に

基調講演：「介護保険制度の改正の動向と福祉用具専門相談員の役割」

厚生労働省老健局振興課

福祉用具・住宅改修指導官

介護ロボット開発普及推進官

東 祐二氏



II 老健事業への取り組み H27年度事業内容発表

III バリアフリー2015

2015.4.16・17・18 in大阪

ふくせんシンポジウム／平成27年度制度改正！

IV ワークショップ

メーカーの視点を福祉用具サービス計画書に活かそう！

V SVスガニ活動紹介

富田大二氏 (株) 同仁社
岩田麻由美氏 (有) 千広
松崎佐一郎氏 マツザキマテリアル(株)

VI

会員インタビュー 田代正博氏
(株) ライコム・コーポレーション

研修ポイント制度事務局通信

～「マイページ」ってどうなってるの？～

登録者だけが見ることのできる「マイページ」。今回はその中身をご紹介します。

マイページでできること

- ①自分が取得したポイントの閲覧
- ②取得ポイントの科目ごとの分布の確認
- ③受講した研修ポイントの申請
- ④プロフィールの変更

特筆すべきは「②取得ポイントの科目ごとの分布の確認」。
具体的にはこんな感じです

各科目の目標値に対して、自分が今どれだけのポイントを取
り得できているかを確認することができるので、
自身のスキルアップの指標にしたり、
後輩の育成の指標にしたりすることができます。

会員のみなさんは、初期登録料¥3,000 円のみ（年会費無料）
でご活用いただけます。

ぜひ、いろんな活用の仕方を発見してください！



※平成27年4月1日から以下の条文が新設されました。

「福祉用具専門相談員は、常に自己研鑽に励み、指定福祉用具貸与の目的を達成するために必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めなければならない。」（指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準第201条第2項）

適切な福祉用具の提供に向け、専門家としての自己研鑽の努力義務が法制化。福祉用具専門相談員制度の大きな転換点に

2015
6/23

定時総会に先立って行われた全国ブロック長会議（4月17日）では、「福祉用具専門相談員の自己研鑽を支援する環境づくり普及・啓発運動」を行うと決定した。総会では、そのアピールをすることともに、職種自体の社会的地位向上のみならず、各々が専門家としての知識・技術を磨くこと、その意識を持って切磋琢磨することが、福祉用具専門相談員の今後に必要なものであることを宣言した。

開会にあたって、岩元文雄理事長は、「平成27年度は、カリキュラムの見直しや、自己研鑽の努力義務規定など大きな変化とともにスタートした。本会としては、政策として示された方向性にそって、自己研鑽を支援するしくみをしっかりと提供していきたい。福祉用具専門相談員のより一層の資質の向上を求めていくことが、現場でのより適切な福祉用具利用の推進や、真の自立支援につながるのだと思う」と述べた。



▲ 岩元理事長

【来賓挨拶】厚生労働省老健局振興課長高橋謙司氏「介護保険制度開始から15年たち、人間にた

とである。また、高齢になっても生活しやすい住環境の確保や、高齢者の健康のための介護予防、生活支援のサービスの充実に入れることも必要」と述べた高橋氏は、本会および本会会員に向け、「ご利用者が安心して福祉用具を利用できるように、また、少しでも自立支援につながるように尽力をお願いしたい」と期待を寄せた。



▲ 厚生労働省老健局振興課長 高橋謙司氏

■本年度の4議案↓承認

- 議案①平成26年度事業報告案に関する件
- 議案②平成26年度決算報告案に関する件
- 議案③役員選任案に関する件
- 議案④定款変更案に関する件

当日は、出席55名、委任状提出者1335名、議決権総数は1390個（会員数1885名の

基調講演

介護保険制度の改正の動向と福祉用具専門相談員の役割



厚生労働省老健局振興課
福祉用具・住宅改修指導官
介護ロボット開発普及
推進官

東祐二氏

「福祉用具専門相談員の指定講習カリキュラムの見直しでは、認知症など疾病についての理解と福祉用具サービス計画の作成に関する知識が特に重視されました。今後はそのカリキュラムで学習した人たちが現場に出てくること、さらに、資格要件の見直しが行われたことから、福祉用具専門相談員のレベルの底上げが期待できると東氏は言う。

また、これまで事業所に対しては、その従業員の教育について規定されていたが、今後は、必要な知識の修得や能力の向上に努めなければならない。自己研鑽が福祉用具専門相談員本人の努力義務となった。

「調査では、従業員に何らかの教育を実施している事業所は9割で、非常に高い実施率ですが、頻度は1〜2月に1回などまだまだ低い。高頻度で行えば短期間で力がつく、というものではありませんが、このような実態も踏まえてきちんと勉強していきましょう」（同氏）。



▲ 岩元理事長（左）から感謝状を受ける武藤氏代理保坂氏



▲ 左から、田代氏、澤本氏、佐藤氏

新潟県ブロック 武藤大希氏
広島県ブロック 澤本恭宏氏
沖縄県ブロック 佐藤大介氏
東京都ブロック 田代正博氏

【会員増強・プラスワン運動】
功労者表彰
平成26年度、「会員増強・プラスワン運動」にご功労いただいた会員を代表し、4名の方に感謝状を授与した。

【自己研鑽普及啓発アピール】

- ① 「研修ポイント制度」の充実を図る
- ② 福祉用具サービス計画作成ガイドラインの普及啓発および指導者の育成
- ③ 各都道府県ブロックでの研修会開催支援と福祉用具プランナー研修の開催
- ④ 会員増強。各都道府県ブロックの設置および地域での関連機関・団体等との連携強化

3分の2以上で、総会は適法に成立した。
■ 報告…平成27年度事業計画4つの基本方針
平成27年度事業計画および収支予算について事務局から説明した。

II

老健事業への取り組み H27年度事業内容発表 「より専門的知識及び経験を有する」福祉用具専門相談員の配置について検討

本会は、平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業の助成を受けて調査研究に取り組む。事業名は、「専門的知識、経験を有する福祉用具専門相談員の配置に向けた研修カリキュラム等に関する調査研究事業」。

平成25年12月の社会保障審議会介護保険部会の意見書では、さらなる専門性向上等の観点から、「福祉用具貸与事業所に配置されている福祉用具専門相談員の一部について、より専門的

知識及び経験を有する者の配置を促進していくことについて、検討する必要がある」としている。本事業では、適切な養成方法の在り方について具現化することを意図して、「より専門的知識及び経験を有する者」の配置に向けて、研修カリキュラムの内容や経験年数等の要件、運用方法など、具体的な仕組みを検討していく予定だ。（昨年度事業報告→8頁）

福祉用具専門相談員の自己研鑽の努力義務が課されました。私たちは、今回の制度改正の趣旨を踏まえて、「福祉用具専門相談員の自己研鑽を支援する環境づくり」に向けて、以下の活動に取り組みます。

一、福祉用具専門相談員は、倫理、法令を遵守し福祉用具の啓発に努めます。

一、福祉用具専門相談員は、福祉用具の活用を通じて高齢者、障がい者の地域での暮らしを支える役割を担います。

一、福祉用具専門相談員は、自らの研鑽に励み、医療や各専門職との連携を深め、情報の共有に努めます。



▲ 畔上副理事長の力強いコールに続き、会員全員で唱和

ふくせんシンポジウム／平成27年度制度改正！ 求められる福祉用具専門相談員の専門性の向上にごつねえるか

2015
4/16
～
4/18
(大阪)

平成27年度制度改正で、福祉用具専門相談員の入口となる指定講習会のカリキュラム等が見直され、研修時間も40時間から50時間に増えた。とはいえ、他のサービスに比べて入口が易しいのが実情である。そこで、現に従事する福祉用具専門相談員に対しては、「常に自己研鑽に励み、(中略)必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めなければならない」(注)とされた。これを受け、シンポジウムでは、研修ポイント制度の活用も含め、福祉用具専門相談員の専門性の向上について、多方面から意見交換した。(注)指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準第201条第2項

◎コーディネーター

白澤政和氏 桜美林大学大学院老年学研究科教授

○シンポジスト

神 智淳氏 お茶の水ケアサービス学院学院長

原田重樹氏 日本介護支援専門員協会副会長

渡邊慎一氏 神奈川県作業療法士会会長(現顧問)

岩元文雄氏 本会 理事長

東 祐二氏 厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官

神氏は、従事してからのスキルアップが重要視されるなかで、「研修ポイント制度で努力が見える化」され、環境が整備されつつある」

ことに期待を寄せた。また、「我々も指定講習事業者として、求められるものに耐え得る研修をしていかなければならない」と述べた。

原田氏は、介護ロボットが将来的に在宅に導入される可能性に触れ、「事故やリスクも考えなければならぬ。メリット・デメリットを提案できる専門職を目指してほしい」とした。また、「ケアマネジャーと福祉用具専門相談員が机を並べて一緒に研修を受ける機会をつくり、自立支援に向けて職種間でコミュニケーションを図ること」の重要性を訴えた。

渡邊氏はリハ職の立場として、「理学・作業療法士を活用してほしい。理学・作業療法士は、



神智淳氏
(しんとみあつ)



原田重樹氏
(はらだしげき)



渡邊慎一氏
(わたなべしんいち)



岩元文雄氏
(いわたもとふみお)



東祐二氏
(ひがしゆうじ)



白澤政和氏
(しらさわまさかず)

治療を軸とした福祉用具の活用のノウハウをもっている。互いに学び、連携することで、病院から在宅介護への流れが良くなっていく」と述べた。

「平成27年度の改正は、福祉用具専門相談員・ふくせんとつて追い風」とは岩元理事長。「さらに専門性をあげ、専門職・職能団体としての評価をあげていくことで、地位をあげていくことができる」とし、ふくせんとしても積極的に取り組んでいくことを約束した。

助言者として登壇した東指導官は、「福祉用具専門相談員一人ひとりが持っている福祉用具を活用した好事例をあげてほしい。効果的なモデルを『見える化』し、行政専門職、これから福祉用具専門相談員になろうとする人たちに広報することが大切」と述べた。

コーディネーターを務めた白澤氏は、「福祉用具専門相談員が力をつけていく仕組みを各事業所が確立していくことが、まず一番の大きな課題。福祉用具に関わる皆が努力して考えていくことが重要」とした。また、「研修ポイント制度を活用して研修の機会を確保し、力をつけて頂きたい」と述べ、シンポジウムを締めくくった。

ワークショップ／メーカーの視点を福祉用具サービス計画書に活かそう！

福祉用具専門相談員の専門性の確保が大きなテーマとなるなか、本会では、福祉用具メーカーを招いてプレゼンテーションをして頂き、商品知識とともに、計画作成のヒントを得るワークショップ開催に注力している。開発や販売を行うメーカーの視点から、選定理由につながる商品の特長や、リスクマネジメントにつながる留意点を、商品説明とともに紹介してもらった。

介護ロボット普及啓発シンポジウム

2/24

平成26年度老健事業の一環で開催したシンポジウム。基調講演、シンポジウムのほか、メーカーによる介護ロボットの展示、プレゼンテーションを行った。

▲アロン化成株式会社
新事業開発部長 中居義貴氏
水洗ポータブルトイレおよび
処理システム



大和ハウス工業株式会社
経営企画部マインレット開発プロジェクト室課長 坂口康人氏 (写真右)
難聴者との会話補助装置 (COMUON) やロボットスーツHALの腰
補助バージョン等をプレゼン (写真はCOMUON)

▲コーディネーター 渡邊 慎一氏

アロン化成株式会社
新事業開発部等東京グループ
グループリーダー 草間 透氏
水洗ポータブルトイレ
および処理システム



介護ロボットが在宅に普及する可能性も視野に入れ、介護保険給付の対象となっている自動排泄処理装置、水洗ポータブルトイレについて、計画に落とし込む視点を学んだ。

バリアフリー2015

4/17

▲ユニ・チャームヒューマンケア株式会社
代表取締役社長 白井 光比呂氏 (写真左)
自動排泄処理装置 (ヒューマニー)



▲コーディネーター
畔上加代子氏
本会副理事長

コーディネーター ▶
西野 雅信氏
株式会社シルバーウッド
高齢者住宅事業部研修担当リーダー



年に一度、会員
が多数集まる定
時総会にあわせ、
計画作成研修を
開催した。

平成27年度定時総会

6/23

日進医療機器株式会社
東京営業所所長 森永 浩規氏
ベルトで張り調整する車いす
(座王シリーズ)

株式会社ケーブ
営業本部中部・北陸ブロック
リーダー 市塚 清晴氏
かんたんモードのエアマット
(NEXUS R)



福祉用具サービス計画作成SV（スーパーバイザー）活動を紹介

ふくせんでは、「福祉用具サービス計画作成スーパーバイザー（SV）養成研修」（以下、SV養成研修）を開催し、指定講習会や各地の研修会において、計画作成について講義ができる福祉用具専門相談員の養成に取り組んでいる。SV養成研修を修了して実際に活動されている会員に、インタビューを行った。

SV活動報告 No.2

◆富田大二（とみただいじ）氏

（株）同仁社 第二営業部
ヘルスケア営業 係長



— どんな活動をされましたか？

福島福祉力レッジからの依頼を受け、指定講習会で、「福祉用具貸与計画等の意義と活用」および「福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の作成」の講義を行いました。

— やってみたいかがでしたか？

SV養成研修で、指導計画の立て方やグループワークの進め方について学んだ経験が、当日役に立ったと感じています。

— 今後への意気込みを聞かせてください！

SV養成研修で学んだことを生かし、内容の充実した講義を行えるよう、日々研鑽を重ねていきたいと思っています。

SV活動報告 No.3

◆岩田麻由美（いわたまゆみ）氏

（有）千広 福祉事業部 ホームヘルスケア課
業務推進企画管理室 室長

— 予定している研修は？

熊本県離職者訓練事業「介護職員実務者研修科」内 福祉用具専門相談員指定講習会
主催：（公財）総合健康推進財団 九州支部

— 依頼の経緯は？

前回の指定講習の際にふくせん会員募集PRに立ち会ったことがきっかけです。本研修会で使用する福祉用具を当社から貸し出していることもあり、今回講師のご依頼をいただきました。

— 意気込みを一言！

一人でも多くの方に、福祉用具の役割をご理解いただき、福祉用具専門相談員の醍醐味・魅力をお伝えできればと思います。

SV活動報告・番外編

◆松崎佐一郎（まつざきさいちろう）氏

マツザキマテリアル（株）
代表取締役

去る3月のブロック総会をうけて、茨城県ブロック



ク長に就任した松崎氏。普段から様々なところで講師活動を行っているが、今年度（11月）はSV養成研修を受講し、あらためて理解を深めて今後の講師活動に臨むとのこと。一言、意気込みをうかがった。

— 予定している研修は？

福祉用具専門相談員指定講習会
（茨城県福祉サービス振興会）、
介護専門員研修（茨城県介護福祉士会）など

— 意気込みを一言！

a change and progress!
（人生一度大切に！）

今年度のSV養成研修開催予定は…

【大阪会場】

日時：10／22・23（木・金）

場所：大阪府社会福祉会館

【東京会場】

日時：11／13・14（金・土）

場所：お茶の水ケアサービス学院

福祉用具サービス計画SVに関する詳しい情報は…

http://www.zfssk.com/sp/1411_sv/index.html

「関心を持つことが成長の第二歩」チームで利用者と向かい合う
ワークフローをいち早く構築

たしる まさひろ
田代 正博氏

(株)ライコム・コーポレーション
代表取締役 (東京都江東区)

田代氏は本会設立当初からの会員。自身はもちろん社員のスキルアップに積極的に取り組み、サービスの質の確保に向けての努力を惜しまない。福祉用具専門相談員として提供するサービスには妥協せず、地域のケアマネジャーともしっかりと信頼関係を築いてきた同氏。本会の活動やサービスに対する考え方を伺った。

——本会に入会したきっかけは？

田代氏…会社を設立し、福祉用具レンタル・販売事業の営業を開始したのが平成12年9月でした。この事業を始めた時に情報収集のためにも入会した方がいいと思いました。当時の山下会長の考え方にも共感しました。

——本会の活動が事業の現場で役立っていることはありますか？

取材日：6月4日
晴天

←田代氏
↓社屋外觀



田代氏…やはり、福祉用具サービス計画の作成

については、大きいと思います。もちろん私も勉強しました。当社では、義務化の前に計画書作成の専門職として2名に徹底的に学ばせ、体制を整えました。現在では、計画作成の専門職を3名に増やし、他の職員をサポートしてもらっています。

——「計画書の作成が大変…」と感じている福祉用具相談員もいるようですが、どう思われますか？

田代氏…「やらされている」という感覚で臨んでいると負担感だけに目がいってしまっているのではないだろうか。意義をしっかりとらえていれば、活きた業務ツールになるのですが。自分の頭で考え、関心を持ち、「自分がやるんだ」という意識を持たなければ、まず覚えられないスキルアップにもつながりませんね。

——社員教育で心がけておられることは？

田代氏…経験の浅い社員でもサービス担当者会議などにはできるだけ出席する。営業会議にはアシスタントも出席し、どんどん発言する。自分がそのご利用者の担当者だという意識を持つことが大切です。その過程で必要な知識を得るために研修を受けたい、勉強したいという思いは、全面的に奨励します。

——今後の課題は？

田代氏…介護保険制度の始期と違って、福祉用具専門相談員は「その人の担当」です。状況の変化をつかんで計画に反映させる、それが出来なければなりません。また、そういったサービスの質を踏まえた価格設定がなければなりません。まだまだ検討が必要ですね。

——ありがとうございました。



「ものが言いやすい会社」を大切にしているという田代氏。取材日の翌日は社内フットサル大会が予定されていました。「プレーはしないけど応援に行くよ」



ライコム・コーポレーション



ラック ハルスカ株式会社



ヤサキ

molten®
株式会社 モルテン

宮城県ブロック新設

昨年度、ふくせんの宮城県ブロックが新たに設立しました。これで、47都道府県中、32ブロックが整いました。

宮城県ブロック長に就任した多田氏に一言いただきました。

■設立年月日…2015年3月10日
■ブロック長…多田 和史氏



多田 和史 氏
(ただ かずふみ)
(株) ジェー・シー・アイ
介護保険事業部 事業部長

この度、ふくせん宮城県ブロック長を務めさせていただくことになりました。皆様と一緒に福祉用具業界を盛り上げていければと思います。宜しくお願い致します。

賛助会員紹介

今年度、新たに2社が賛助会員として入会してくださいました。賛助会員のみなさまは、本会の活動に賛同し、福祉用具専門相談員ならびに福祉用具サービスの発展のため、ご支援、ご協力くださっています。

新調査員紹介を紹介

本会では、世田谷区が介護給付適正化事業のひとつとして行う「福祉用具購入に係る訪問調査」に、本会の東京都ブロック会員を調査員として派遣する形で協力しています。平成27年4月に新規登録してくださった依田さんを紹介します。

■氏名…依田 学氏



依田 学 氏
(よだ まなぶ)
(株) 仁済
専務取締役

目的にあわせた適切な利用が出来るか確認するだけでなく、福祉用具の導入によって、つくられた障害や事故が起きないように、区の方をサポートしていきます。

大和ハウス工業株式会社

主な事業…排泄ロボット「マインレット爽」「ヒューマニー」をはじめ、ロボットスーツ「HAL」、免荷式リフト「POPO」、セラピーロボット「パロ」などのロボット福祉機器を取り揃えています。

7月末発表予定！利用者向け「モニタリング」説明リーフ

本会では、昨年度の「福祉用具サービス計画書の読み方」に引き続き、消費生活協同組合の助成を受け、モニタリングを説明するリーフレットを制作しています。

福祉用具専門相談員が利用者・家族とお話する際に、訪問して利用状況を確認したりすることの重要性を説明できるよう、本リーフレットを補助ツールとして活用して頂くことを期待しています。



パラマウントケアサービス株式会社

主な事業…レンタル卸事業者として、福祉用具貸与事業者に消毒・メンテナンスした福祉用具の貸出しを行うほか、様々な研修や福祉用具貸与事業者向けの業務支援システム「スマートシェイク」の提供も行っています。

老健事業…昨年度の事業報告

平成26年度は、「在宅における介護ロボット普及の課題と福祉用具専門相談員の役割に関する調査研究事業」に取り組みました。国の「ロボット介護機器開発5カ年計画」を踏まえ、在宅における介護ロボット普及上の課題を整理し、その際の福祉用具専門相談員の役割を検討するために取り組んだものです。



※詳細はウェブサイトでご覧いただけます。
http://www.zfssk.com/sp/1302_chosa/abc_2015.html

ふくせん ふくせんレポート 第012号

発行所
一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会
〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7
ローレル三田 404
TEL : 03-5418-7700 FAX : 03-5418-2111
URL : <http://www.zfssk.com/>

編集協力 株式会社 東京コア
発行日 2015年7月15日

株式会社
SHIMA 島製作所

シーホネンス株式会社